

カーゴニュース

秋元運輸倉庫

イーソーコードットコム開発の配送手配システムを本格稼働
中小サイズのデータ量に対応し、インターネット活用で導入が容易に

秋元運輸倉庫(本社・東京都港区、荒牧敏夫社長)は5月1日から、配送手配システムを本格稼働させる。システム開発はイーソーコードットコム(本社・東京都港区、早崎幸太郎社長)が担当。従来、電話やファクスなどで依頼を受け、社内データ化していたが、人による作業が発生し、時間がかかるだけでなくミスの可能

性が高くなっていた。システム化により、荷主企業、秋元運輸倉庫、運送会社が1つのデータを共有することになり、スピーディーでミスも少ない運用が可能になる。

活用できる。従来のように、荷主企業から電話やファクスで依頼を受け、秋元運輸倉庫で運送

配送手配システムはインターネットを介して荷主企業、運送会社、秋元運輸倉庫が共通で利用できる、荷主企業が打ち込んだ情報をそのまま

とも連動させたことで、在庫管理のスピードアップ、正確性の向上も図れた。

会社に電話やファクスで指示するようなことがなくなる。また、倉庫管理システム(WMS)

秋元運輸倉庫の鈴木清取締役は「大企業であれば取扱量が大きく、システム開発の選択肢は多い。しかし、当社のように取扱量が小さいと、システム化のメリットと開発コストがなかなか相殺できない。今回、取扱量が小さくてもメリットが出るように、機能を最小限に抑えて

使いやすいシステムを導入できた」と話す。

イーソーコードットコムの早崎社長は「システムをすべてまかなおうとするとコストアップになる。今回は人が行っていた作業量をいかに減らすかというところにポイントを絞ったため、コストパフォーマンスの高いシステムを開発できた」としている。

イーソーコードットコムの早崎社長は「システムをすべてまかなおうとするとコストアップになる。今回は人が行っていた作業量をいかに減らすかというところにポイントを絞ったため、コストパフォーマンスの高いシステムを開発できた」としている。